

✧ 海外ニュース ✧

オーストラリア 2024年5月3日 Roads & Infrastructure

■ テラテック工法：革新的な道路補修

Teretek : Revolutionising road repairs

道路補修において、大規模な掘削や労働集約的な手順を必要とする従来の方法と異なり、テラテック工法は効率と効果を優先する合理的なアプローチを提供する。先進材料・技術を利用することで、同工法は既存のインフラへの障害を最小化し、空隙充填、レベル補正、地盤改良を可能とする。同工法の重要性は補修プロセスを促進し資産所有者・管理者に大幅な節約をもたらす能力にある。メインマーク社は、30年以上にわたる十分に試行された実績を持つオーストラリア市場におけるテラテック工法/ポリウレタンのパイオニアである。同社は自社取扱製品、機器、オーストラリアの条件に適応するチームをテスト、開発してきた。

米国 2024年5月6日 World Highways

■ ウィビルド社がボルチモア橋の設計を提案

Webuild proposes Baltimore Bridge design

ウィビルド社はボルチモアの港と大西洋間の斜張橋架け替えについて米国子会社レーンを通し提案している。橋の設計と再建に対する米当局への無料のオファーは、同社の声明によると米国への連帯と友情の証として立案されたものである。予備提案はマサチューセッツ工科大学教授の建築家カルロ・ラッティとフランスの構造エンジニア、ミシェル・ヴィルロジューと連携し起草された。同社はイタリアでジェノバ橋が嵐の中崩落した後、コロナ禍による制限にもかかわらず約1年間で新たな橋を建設した。橋の振動データを集める携帯電話アプリの開発が「グッドバイブレーションズ」プロジェクトに含まれている。

英国 2024年5月7日 Highwaysindustry

■ 高度モニタリング技術で M25 号線高架橋の完全性を保持

Advanced Monitoring Technology Preserves M25 Viaduct Integrity

世界最大の環状高速道路の1つであり英国の高速道路交通の15%を占めるM25号線で、メンテナンス中の混乱を防ぐため念入りな計画が求められている。インフラの構造条件に関する正確なリアルタイムデータを持つ重大性が認識され、メイビー・ハイヤー社の構造モニタリング技術がM25号線とM23号線を結ぶ戦略的道路ネットワークの重要部であるマーズサム高架橋で最近実装された。2022年に高架橋のベアリングパッドの定期点検で移動許容量と溶解可能性に関する懸念が生じたため、オクタヴィウス・インフラストラクチャー社が同社と提携し構造モニタリングシステムを供給していた。

スペイン 2024年5月7日 Abertis

■ アベルティス社は、国際的な70のスタートアップ企業が参加した新企画「ドローン・チャレンジ」の最初の挑戦を終えた

Abertis cierra su primer reto de innovación 'Drone Challenge' con la participación de 70 startups internacionales

今回の企画に参加した約70のスタートアップ企業は、道路運営とインフラ維持を改善しようとするドローンを用いた交通政策上の課題に新しい解決策を模索する試みとして集結した。それらの企業の中で、スペインと米国の会社が展開するAzisa & Arenは4万ユーロの支援金を獲得した。アベルティス社が活躍する地域での主導的役割が評価されたのである。他に入選した5社は、それぞれ4,000ユーロの賞金を獲得している。ドローンがインフラ整備に役立つツールとしてAI技術と並んで注目されている。

イタリア 2024年5月9日 Trasporti-Italia.com

■ アウトストラデー・イタリア社は、防音バリアに太陽光発電設備を設置する

Autostrade per l'Italia installa un impianto fotovoltaico su barriere fonoassorbenti

防音バリアに太陽光発電設備を設置するプロジェクトは世界でも先駆けとなる試みで、ミラノとナポリを結ぶ高速道路 A1 のヴァルモンターネ・インターチェンジで完成の日を待っている。ローマの南に位置する地点での設置計画で、防音効果を有するバリアと再生エネルギーの生産を連結させる意図がある。年間約 80 MWh を生み出し、ヴァルモンターネの料金所の電気需要を賄うことができる見通しである。その生産力は 20 戸を超える家族の電力消費に相当し、設備の稼働中には約 600 トンの CO₂ 削減につながる。

英国 2024年5月9日 ADAS & Autonomous Vehicle International

■ rFpro 社がロサンゼルスデジタルモデルを作成

rFpro creates Los Angeles digital model

シミュレーションソフトウェアの専門企業 rFpro 社は、カリフォルニア州ロサンゼルスで広大な道路ネットワークの精密なデジタルツインを開発しており、自律走行車と自動運転技術の開発を支援する。仮想環境は、技術者が公道への展開前にシミュレーションで自律走行車の広範な代表試験を実施できるよう設計されている。モデルは、36 km の経路で高さ 1 mm 以下の精度を持つ車両力学グレード路面を生成する測量グレード LiDAR スキャンデータを用いて作成された。沿道の駐車、中央分離帯、住宅地の縁石傾斜、踏切、橋、トンネル、多数の交差点といった自動運転の課題も取り入れられている。

米国 2024年5月13日 ITS International

■ ヴィアプラス社に「テキサスの星」の荣誉

A Texas star for ViaPlus

ヒューストン内外のハイウェイで画像点検サービスを提供するため、ヴィアプラス社がテキサス州のハリス郡有料道路公社によって選任された。同公社のフリーフローシステムには、料金請求書作成のためのナンバープレート画像の撮影が含まれる。契約を通し、ヴィアプラス社はそれら画像の自動・手動処理を提供することになる。主に同社は光学式文字認識ソフトウェアと機械学習アルゴリズムで画像点検処理を最適化し、未了の後処理取引を手作業で点検することになる。ヴィアプラス社の最高責任者リチャード・アルセ氏は、この新たな契約により同社がテキサスでその地位を強化することになると述べた。

米国 2024年5月15日 Government Market News

■ カリフォルニア州が交通安全を改善し渋滞を緩和するため AI を使用

California to use AI to improve road safety, ease congestion

カリフォルニア州の交通局は州の交通を改善するため、生成 AI の使用を模索し始めている。同局は民間企業に 3 件の契約を発注しており、交通安全と渋滞発生地に対処する解決策を探るべくこの新しい技術を利用する。非常に多くの人々が混雑した道路で運転するため、致命傷、重傷事故の件数が 2011 ~ 2019 年の間に年々増加している。同局は選ばれた民間企業、カリフォルニア州技術局、一般サービス局と協働し、公開データを用いて AI ツールを開発、さらには実社会で AI ソリューションを実施する前に仮想環境、すなわち「サンドボックス」において提携団体と協働することになる。

ポルトガル 2024年5月16日 elEconomista

■ 道路建設管理運営会社のセレナ社は、リスボンの橋とドウロ・インテリア高速道路の資本に参入する

Serena entra en el capital de los puentes de Lisboa y la autopista Douro Interior

持続可能なインフラ基金の独立運営会社のセレナ・インダストリアル・パートナーズは、ポルトガルでの道路インフラ事業について 40% を購入する契約を締結した。この事業はポルトガルのノボバンコ社が管理運営している。この業務契約により、セレナ社はモタ・エンジェル社とともに、リスボンの橋とドウロ・インテリア高速道

路を傘下に置くことになる。これによりセレナ社は欧州における3つの重要交通資産に参加することになり、欧州横断輸送ネットワークの一角を成し、高度な地理戦略上のインフラを構成することになる。

ドイツ 2024年5月19日 Spiegel

■ 乗用車対象の高速道路通行料をめぐる議論が再燃

Wieso jetzt wieder über die Pkw-Maut gestritten wird

ドイツでは乗用車の高速道路通行料金導入をめぐる議論が再燃している。きっかけは経済専門家会議が2024年5月に提出した経済見通しで、この中で同会議は「経済成長と環境保護のため、老朽化した交通インフラの近代化と拡張工事が必要である」としてインフラ予算の拡大を提言、財源確保のため利用者負担を増やすべきだとしている。これに対し連邦議会議員からは早速、厳しい経済状況下で市民に負担増を強いるのは間違いだと反論する声が複数上がった。ドイツの高速道路は2005年からトラックを対象に通行料が導入されているが、2024年7月からはより軽量な車両総重量3.5トン以上のトラック（従来は7.5トン以上）にも通行料が課されることが決まっている。

英国 2024年5月20日 Highways Magazine

■ ハーパー大臣が2億ポンドのM3計画を認可

Harper gives green light to £200m M3 scheme

英運輸大臣マーク・ハーパーは、National Highwaysの遅れている2億ポンドのM3ジャンクション9計画に対する開発同意命令を許可した。この計画ではM3とA34間の双方向で流動性のよいリンクを形成するようジャンクションが変更される。また、ジャンクションは拡大され、円形を形成する新たな2基の橋を伴い、M3がジャンクション下で3車線から4車線へ増加することを可能とする。この計画は2015～20年の道路投資戦略で初めて発表され、2018年に選好ルート発表で2021年の主要建設工事の開始日が示されていたものの、2025年初頭に開始し約3年を要する予定となっている。

フランス 2024年5月23日 APRR

■ 道路の新しい安全啓発運動

Nouvelle campagne de sécurité routière saisissante

道路上の安全について、安全回廊の尊重を呼びかける新しい啓発運動が展開されている。目の前で同僚が亡くなるのを目撃した警察官や消防士らの証言を集めた映像がその啓発運動で用いられている。この5分間の映像では、レッカー車など、緊急停止車線で作業することの危険性を訴えていて、そこには常に危険が潜んでいることを指摘している。車を運転する人に対する啓発映像でもある。

フランス 2024年5月24日 Le Figaro

■ 騒音公害の話題：より静かでエネルギー効率がよい車道の実現へ

Nuisances sonores : vers des chaussées plus silencieuses et moins énergivores

環状道路の交通から発生する騒音の社会的コストは、少なく見ても810億ユーロに達するという。車道に工夫を施して騒音を制御する方法が一番効率的である。ルノー社が音響の性質をマッピングする一方で、コラス社は2倍静かな舗装道路を開発した。イル・ド・フランスには1,050万人が住んでいるが、そのうち800万人が世界保健機構の推奨する基準を超えた騒音にさらされている。環状道路の通行量が減っても、騒音による睡眠障害や心臓血管の疾患を誘発するので、平均10カ月の寿命短縮を道路沿いの住民にもたらしていると言われている。

ドイツ 2024年5月29日 BMDV

■ ドイツにおける高速道路トラック通行料金導入の経緯

Lkw-Maut

ドイツでは2024年7月1日から車両総重量3.5トン以上のトラックが新たに高速道路通行料徴収の対象とな

る（従来は7.5トン以上）。2005年の通行料導入以来、徴収対象や基準はたびたび修正されてきた。その主なものは次のとおり。① 2019年1月1日より重量クラス別の課金を導入。道路にかかる負荷に応じた、より公平な課金システムとした。② 2023年12月1日より、課金基準としてCO₂排出量を追加。車両の有害物質・CO₂排出量に応じた通行料課金によって、運輸各社の低排出車両導入を促すとともに、貨物輸送の鉄道・水路への転換を促進する。排出ゼロの大型商用車については、2025年末までの通行料免除が決まっている。

米国 2024年5月30日 ITS International

■ ネットワーク・オプティクスが「シリコン・オーチャード」で Nx Go ソフトウェアを展開

Network Optix deploys Nx Go software in 'Silicon Orchard'

ビデオソフトウェアの専門企業ネットワーク・オプティクスは、Nx Go 交通インフラソリューションをピーチツリー・コーナズ市、キュリオシティ・ラボの「IoT 制御室」に取り入れたが、これは米国の本格的なソリューションとして同技術の初展開となる。この制御室は、(ジョージア州アトランタ都市圏、5G テストベッドの自律走行車、人運転車、歩行者が混在する) スマート道路インフラに設置されたLiDAR, その他センサーからの監視カメラ映像・データをまとめる Nx Go を使用したスクリーン壁を売りにしている。

ドイツ 2024年5月30日 BMDV

■ ドイツ交通・デジタルインフラ省が高速充電ステーション設置義務化に向け草案を提出

BMDV legt Referentenentwurf zur Tankstellen-Versorgungsaufgabe vor

ドイツ交通・デジタルインフラ省 (BMDV) はこのほど、ガソリンスタンドを経営する大手各社に2028年1月1日から各スタンドで高速充電設備1基の設置を義務づける新たな法律の草案をまとめた。同案によると、国内に200カ所以上のガソリンスタンドを持つ大手各社は、原則すべてのスタンドに最低1基、公共高速充電ステーション(150kW以上)を備えなければならない。BMDVによると、電気モビリティの増加に備えるため、そして気候保護目標を達成するためには、全国にくまなく高性能充電ステーションを配置することが重要である。ドイツでは全国に約11万5,000台の公共充電ステーションがあり、うち2万2,000台弱が高速充電ステーションである(2024年4月現在)。

米国 2024年5月31日 Roads & Bridges

■ ミシガン州で自動運転専用コリドーが開通

Michigan Opens Automated Driving Corridor

コネクテッドカー・自動運転専用コリドーを設置するミシガン州において、州間高速道路94号線の約5km区間への建設作業が完了し、まもなく試験運用される。運転者はこのコリドーによって、自動で運転可能な車両とデジタルコミュニケーションを行うことができる。このプロジェクトはもっぱらウェイン郡内のものであるが、ミシガン州の交通局と提携企業キャプニューは、いつの日かアナーバーとデトロイト間まで拡張されるだろうと述べている。中央分離帯の柱には、新たな技術を可能にする車両と通信することを意図したカメラ、レーザーセンサー、無線装置が備え付けられている。

イタリア 2024年5月31日 Il Fatto Quotidiano.it

■ グーグルマップのエラーが高速道路A22の一区間を削除してしまい、ブレンネロで交通渋滞を引き起こし、ヴィピテーノ料金所で長蛇の列となった

Un errore di Google Maps "cancella" un tratto dell'autostrada A22 : traffico in tilt sul Brennero e casello di Vipiteno preso d'assalto

2024年5月30日、オーストリア国境付近のイタリアのブレンネロで、間違ったグーグルマップのナビに従って高速道路から降りようとした車両がヴィピテーノ料金所前で渋滞を引き起こした。実際には高速道路A22は通行可能で、特段の障害となる問題は発生していなかった。単にグーグルマップがエラーを起こしていただけであった。その結果、運転者と同乗者にとって好ましくない6kmに及ぶ渋滞を形成してしまった。